

時空を超えて伝える

MUSEUM OF FUDE ART

FUDE NO SATO KOBO

www.fude.or.jp
www.kumanofude.com

開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 月曜日（祝日の場合翌日） 年末年始
入館料 大人600円（500円）
小中高生250円（200円）
（ ）内は20名以上の団体料金 幼児無料
展示内容により変更します

【バスで】
・広島バスセンターから約45分
広電バスの熊野萩原行 又は 熊野営業所行 乗車
・JR呉線矢野駅から約15分
広電バスの熊野萩原行 又は 熊野営業所行 乗車
・JR呉駅から約35分
広電バスの熊野営業所行 乗車
※いずれも熊野営業所下車し、
最寄のタクシーで約7分（2km）

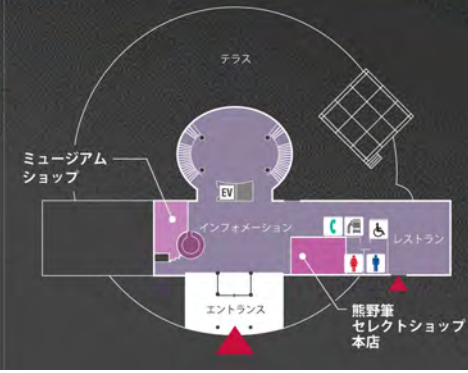
【お車で】
・西より、
山陽自動車道広島東ICから約25分（23km）
広島高速道路、海田大橋、広島熊野道路を經由
・東より、
東広島呉道路黒瀬ICから約15分（9km）
山陽自動車道高屋JCT・ICを經由

【駐車場】 普通車84台・大型バス3台（無料）

〒731-4293 広島県安芸郡熊野町中溝5-17-1
TEL 082-855-3010
FAX 082-855-3011



熊野筆セレクトショップ本店
180年の歴史と匠の技を誇る「熊野筆」のブランド化を推進するオフィシャルショップで、書筆、画筆、化粧筆約1,500種類を販売しています。
ミュージアムショップ
手書きと筆跡にこだわったアイテムと、オリジナルグッズ、展覧会関連のグッズなどを販売しています。



筆司の家
昔ながらの熊野の民家で、筆司による筆づくりの実演を交え、筆ができるまでの工程を紹介しています。



ギャラリーIII

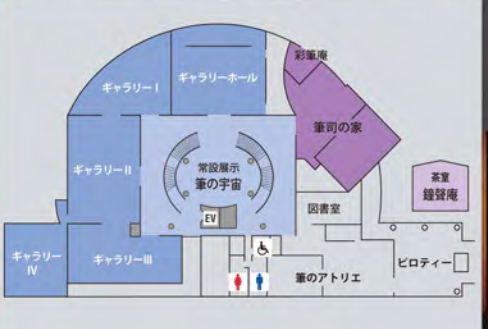


茶室「鐘聲庵」
三畳台目の本格的茶室で、茶会や教室を開催します。

B1F
筆の宇宙
古代日本に文字が伝来し、その後仏教とともに伝わったとされる筆。奈良時代には写経が盛んになり、日本での筆文化が歩み始めます。平安時代に日本独自の文字「ひらがな」が完成、江戸時代に至って筆文化は庶民のくらしの中へと浸透していきます。
このような漢字の伝来から日本のかな文字の発生、筆文化の発展を遂げるまでに関わった筆の歴史を日本文化の変遷をたどりながら紹介しています。



世界一の大筆



仿古本朝名人用筆 乾・坤

木村陽山コレクション
木村陽山（1899～1986）は京都の書家で、日本における毛筆研究の名著『筆』（天竺堂書店、1975）を著した、毛筆の研究者・収集家としても名を知られています。師である山本竟山から譲り受けた筆を基礎として精力的に収集を続け、ついに1,000点を越えるコレクションを形成しました。
このような筆の収集・研究に対する陽山の熱意が、「広辞苑」の編纂者、新村出をはじめとする当時の知識人との交流をもたらし、西園寺公望、富岡鉄斎、竹内栖鳳らの愛用した筆を遺族から譲り受けています。さらにこのコレクションには、熊野筆の源流ともいえる有馬筆や、日本の近代製筆の発展に功績を残した高木寿碩の資料のほか、筆管に裝飾が施された観賞用の筆までもが含まれており、質量ともに世界的にも匹敵するものがない毛筆コレクションといえます。



ギャラリーI

熊野筆
熊野町は広島県の西部に位置し、四方を500m級の山々に囲まれた高尾盆地で、広島・呉・東広島市に隣接しています。熊野町での筆づくりは江戸時代末期頃に始まったとされ、1975（昭和50）年には通商産業大臣（現在の経済産業大臣）により伝統的工芸品の指定を受けています。全国生産額の大部分を占める筆の産地で、書筆のほか画筆、化粧筆も生産しています。
筆の里工房は、「熊野筆」という地域の特産性を活かし、魅力あるまちづくりの中心的な役割を担う施設として、熊野町が1994（平成6）年に建設した博物館で、一般財団法人筆の里振興事業団が運営しています。質量ともに日本に現存する唯一最大の「筆の收藏品」木村陽山コレクションを背景とした、日本の筆づくりの歴史に関する調査研究及び資料収集を図るとともに、筆の織り成す文化（書、絵画、工芸、化粧など）を紹介しています。



筆の里工房外観